



分野 7

文化・観光

担当課	事務事業名	第11次基本計画 基本施策	事業概要	現状に対する認識と今後の方向性	評価者	外部評価コメント
文化振興課	文化振興推進事業	7-1 豊かさを育む文化芸術の推進	松本市の文化芸術の振興及びそのために必要な機能向上を図るための事業等を実施するもの。市民との協働による文化の醸成を図り、市民の文化芸術活動への参画・協力の機会を増やすために協力するもの。	松本市文化芸術推進基本計画を令和3年9月に策定し、計画に基づく施策の展開を実施する。計画では、他分野の連携により、課題解決や地域の活性化につなげることであり、庁内での連携が必須としており、令和4年度以降、計画に掲げる重点施策を中心に事業化に向けた協議を重ねていきたい。	松本大学 総合経営学部 観光文化リテリ学科 学科長 畑井 治文 教授	令和3年9月に策定された松本市文化芸術推進基本計画に基づいて、各施策の展開を着実に進めて頂きたい。同事業の中の「アーティストバンクまつもと」については、データベースの整備と同時に、その活用方法をもう一步踏み込んで検討することが必要ではないだろうか。
文化振興課	市民との協働による舞台芸術イベントの開催	7-1 豊かさを育む文化芸術の推進	隔年開催の「信州・まつもと大歌舞伎」市民活動事業について、関連事業やボランティアをはじめとする市民主体の公演運営等活動の経費の一部を負担し、市民との協働による文化の醸成を図るとともに、「市民の文化芸術活動への参画・協力」の機会を増やすための事業へ協力するもの。	幅広い世代が文化芸術に親しめるとともに効果的に街なかの賑わいを創出するようイベント内容を検討する。	松本大学 総合経営学部 観光文化リテリ学科 学科長 畑井 治文 教授	「信州・まつもと大歌舞伎」のより一層の定着化を図るために、開催年でない年（令和4年）においても、何らかの関連事業を実施すべきではないだろうか。同事業に参画した市民サポーターを集めて、交流を図るような機会を設定しても良いかもしれない。
文化振興課	まつもと市民芸術館事業	7-1 豊かさを育む文化芸術の推進	まつもと市民芸術館開館当初からの管理運営方針に従い、松本市民に世界的にも高い水準の芸術文化を創造・鑑賞する場を提供するとともに、市民の芸術文化創造とその支援及び発表の場、市民の交流の場となるよう事業を推進するもの。	「まつもと市民芸術館のこれからの考える専門家会議」の提言要旨に沿って検討を進める。 ・芸術監督制は継続すべきであること ・次代を担う子どもたちのために必要とされる劇場とすること ・スタッフの充実を図ること ・市民をパートナーとして協働をすすめること ・芸術文化に携わる者を養成すること ・芸術文化に必要な予算を確保すること	松本大学 総合経営学部 観光文化リテリ学科 学科長 畑井 治文 教授	「まつもと市民芸術館のこれからの考える専門家会議」の提言要旨に沿って、同事業を着実に進めて頂きたい。近年は、コロナ禍の影響もあって、自主事業の実績（集客数など）は低下傾向にあるが、同事業の潜在能力・波及効果は高いと思われるので、いま一度、コロナ禍前の水準まで戻すことを期待したい。
国際音楽祭推進課	文化振興推進事業	7-1 豊かさを育む文化芸術の推進	地元で縁のある音楽団体等によるストリートライブ「楽都・松本ライブ」を市民による企画・運営により開催し、文化芸術活動をより身近なものにし、また同時に活動者の励みや生きがいを創出する。	クラシック音楽に限らない楽都松本の魅力を市民とともに発信している。市民や松本を訪れた方が気軽に音楽を楽しめる機会を提供するため、継続的な事業展開が必要他課の事業との連携を強化する。	松本大学 総合経営学部 観光文化リテリ学科 学科長 畑井 治文 教授	楽都を標榜している松本において、市街地でのストリートライブを支援する取り組みは大変重要であると考えます。「アーティストバンクまつもと」の活用など、他課の事業との連携を図って頂きたい。なお、松本駅前、イオンモールなどが活動の中心となっているが、行政には活動拠点の開拓についても期待したい。
国際音楽祭推進課	国際音楽祭推進事業	7-1 豊かさを育む文化芸術の推進	サイトウ・キネン・オーケストラによる世界最高水準の音楽祭を共催するとともに、フェスティバルを支援する市独自の関連事業を実施することで、交響管弦楽及びオペラ等音楽的総合舞台芸術の普及振興、次世代若手音楽家の育成、義務教育世代への音楽情操教育の支援、地域の活性化、文化芸術に触れる機会の創出に寄与するもの。	1992年のフェスティバル開幕以来、楽都・松本の象徴として西洋音楽を松本の地から世界に向け発信し続け、これまでの鑑賞者数は関連事業も含め延べ200万人を超える。（2020・2021年は新型コロナウイルス感染症の影響により公演中止）ポストコロナ時代、適切な感染対策を図りつつ文化・芸術が楽しめる環境を整え、心豊かな社会の実現及びまちの賑わい創出を目指すため、今年で30周年を迎える「セイジ・オザワ 松本フェスティバル」を今後も引き続き支援するとともに、開催都市として関連事業の一層の充実にも努める。	松本大学 総合経営学部 観光文化リテリ学科 学科長 畑井 治文 教授	令和3年度は、新型コロナの影響による公演中止の代替事業として、一部プログラムのYouTube配信（無料配信）が実施されたとのこと。同配信の視聴者数は約12万人と、日本に限らず、世界各国から非常に大きな関心を集めたことが伺える。今回の代替事業で得られた成果を、これから（ポストコロナ時代）の音楽祭のあり方を検討する際に活かして頂きたい。
美術館	美術館事業	7-1 豊かさを育む文化芸術の推進	市民の芸術文化の振興を図り、文化の薫り高い豊かな市民生活に資するため、美術館が目指す4つの柱（鑑賞・表現・学習・交流の場）を踏まえ、各種展示会事業や草間彌生顕彰事業などを実施するもの。	優れた芸術作品の鑑賞の機会を提供することと、地域に根ざす総合美術館として、鑑賞、表現、学習、交流という、美術館が目指す4つの柱に沿って事業を行う。	松本大学 総合経営学部 観光文化リテリ学科 学科長 畑井 治文 教授	美術館の内だけにとどまらず、美術館の外で実施する事業についても継続的に力を入れて頂きたい。まちなかアートプロジェクトとの連携はもちろん、館外での美術講座・ワークショップなどは、市民に美術を身近に感じてもらえる大切な機会であると考えます。特に教育普及事業にかかる目標の達成度向上が期待される。

担当課	事務事業名	第11次基本計画 基本施策	事業概要	現状に対する認識と今後の方向性	評価者	外部評価コメント
生涯学習課	芸術文化事業	7-1 豊かさを育む文化芸術の推進	松本市芸術文化祭などを通じ、多くの市民が気軽に楽しく文化芸術にふれあう機会を創出し、市民の主体的、継続的な文化芸術活動の促進を図るもの。	市民による文化芸術活動の発展の場とともに、創造性や感性を育み、人生に生きがいや感動を与える機会となってきたが、高齢化が進んでいる。また、コロナウイルスの影響で、イベントの準備や練習が制限されることから、今後のコロナの状況によっては開催が難しい点がある。盆踊りを継続していくために、広報媒体や内容について検討していく必要がある。	松本大学 総合経営学部 観光文化リテリ学科 学科長 畑井 治文 教授	美術館の休館、コロナ禍の影響などはあったと考えられるが、それを勘案しても、成果指標（松本市芸術文化祭への参加者数）の達成度が低い点が気になる。他課の事業との連携・統合など、いま一度、事業のあり方を検討すべきと考える。
文化振興課	松本城世界遺産推進事業	7-2 歴史・文化遺産の継承	国宝松本城を保護・保存し、次世代へ継承するために、松本城の世界文化遺産登録を目指す過程で、登録の前提となる国内の「世界文化遺産暫定一覧表」記載に必要な調査研究及び市民への普及啓発を実施するもの。	「世界文化遺産暫定一覧表」の見直しに向けて、文化庁が動き出している。こうした状況であることから、松本城の世界遺産登録を目指し、更なる調査研究及び市民への普及啓発など活動を広げていく。	松本大学 総合経営学部 観光文化リテリ学科 学科長 畑井 治文 教授	まずは「世界文化遺産暫定一覧表」への記載を目指して、調査研究及び市民への普及啓発の活動を推進して頂きたい。松本城周辺の中心市街地だけでなく、松本市全体として、その気運を高めることが肝要であると考えている。
文化財課	まつもと文化遺産活用事業	7-2 歴史・文化遺産の継承	文化財保存活用のアクションプランとして平成30年度に策定した松本市文化財保存活用地域計画に基づき、文化財の活用を図るもの。 従来の指定制度による文化財の保存、活用に加え、未指定文化財を含めた面的な活用を図り、地域住民の文化財を活用した地域づくり、まちづくりにつなげていくもの。	歴史文化基本構想の策定時に、地域主体で文化財調査を行なったことで、調査成果を活用する動きと文化財を地域で保護する機運を醸成することができた。「まつもと文化遺産」の認定により、市民による地域の文化財の保存活用を支援するとともに、地域の文化財を広く周知する必要がある。	松本大学 総合経営学部 観光文化リテリ学科 学科長 畑井 治文 教授	市民による地域の文化財の保存活用を支援するための仕組みとして、「まつもと文化遺産」の認定制度には大きな可能性があると思われる。関連文化財群として、数多くの地区・文化財が設定されているにも関わらず、令和3年度には新規認定がなかったことは非常に残念な結果であった。いま一度、同認定制度の周知を徹底して頂きたい。
文化財課	松本城学びと研究事業	7-2 歴史・文化遺産の継承	松本城を共有の宝として後世に引き継ぐため、市民が生涯にわたって自ら主体的に学び続けていくきっかけとなるよう、これまでの調査・研究成果を基に、松本城に関する学びの機会を提供するもの。	松本城を身近に感じてもらうため、学びの場（機会）提供としての事業は継続する。機会の提供にあたっては、実体験的なものから、画像・映像・音声を活用したもので、種類を幅広く用意する。	松本大学 総合経営学部 観光文化リテリ学科 学科長 畑井 治文 教授	松本城を身近に感じてもらうためには、松本城の歴史的側面に限定することなく、例えば松本城が抱えている今日的課題（堀の堆積物除去及び水質浄化）を学びのテーマに組み込むなど、他課の事業との連携を検討してみることも必要ではないだろうか。子ども対象の事業は、小中学校との連携に軸足を置くべきと考える。
文化財課	堀浄化対策事業	7-2 歴史・文化遺産の継承	松本城の堀（内堀、外堀、総堀）の堆積物除去及び水質浄化を実施し、快適な公園環境・見学環境の維持向上を図るもの。	堀の水質浄化のためには、堆積物で埋まりつつある堀の全面的な浚渫工事（堆積物除去）が必要。工事にあたっては、遺構への影響を与えぬよう、また、観光客や市民に配慮しながら松本城の堀に適した手法を用い、広大な内堀、外堀、総堀を計画的に実施する。工事実施までは、薬剤の散布による水質浄化を図るほか、日常的な清掃等により堀の維持管理を行う。	松本大学 総合経営学部 観光文化リテリ学科 学科長 畑井 治文 教授	世界文化遺産を目指す上でも、松本城の堀の堆積物除去及び水質浄化は、重要な問題であると思われる。浚渫に関する計画に基づいて事業を着実に前進させて頂きたい。ふるさと納税制度、クラウドファンディングなどを通じて、必要な事業費の一部を確保することを検討してみても良いかもしれない。
博物館	まる博構想推進事業	7-2 歴史・文化遺産の継承	平成12年度に策定した松本まるごと博物館構想に基づき、博物館が市民協働や博物館連携事業を実施することにより、学びを通じた「ひとつづくり」「まちづくり」を推進するもの。	市民学芸員の養成は今後も継続的に進めていく。新博物館の1階活用について、市民学芸員や友の会と協力しながら1階のにぎわいづくりを行う。市民の皆さんが博物館での学びにより、松本の魅力に気づき、その成果を発信することにより、多くの市民に学びの輪が広がり、その魅力を更に高めようとすることでまちづくりへの寄与を図る。	松本大学 総合経営学部 観光文化リテリ学科 学科長 畑井 治文 教授	今後、市民学芸員や友の会など、博物館に関わる市民の裾野を広げるように注力して頂きたい。同事業の成果指標のひとつとして「市民学芸員の事業開催数」が挙げられているが、「市民学芸員が実施したワークショップ・講座などへの参加者数」を把握することも同事業を評価する上では大切ではないだろうか。
博物館	博物館事業	7-2 歴史・文化遺産の継承	松本市立博物館本館と分館15館で、各施設の特徴を生かした、資料の収集・保管、調査研究、常設展、特別展・企画展などの展示、講座・講演会等を実施し、歴史・文化遺産に対する市民の理解を深めるもの。	資料整理については、全館継続的に事業を進めていく。特別展・企画展は、令和5年まで休館する本館及び令和6年まで休館する旧開智学校以外で、感染症対策をとりながら進めていく。	松本大学 総合経営学部 観光文化リテリ学科 学科長 畑井 治文 教授	本来であれば、成果指標として「博物館の利用者数」が前提にあり、その上で「博物館で開催する事業の参加者満足度」を測定するのが妥当ではないだろうか。松本市立博物館（本館）の移転新築に合わせて、市民の利用促進を図る具体策（市民無料デー、無料エリアの設定など）を検討して頂きたい。
博物館	国宝旧開智学校校舎保存活用事業	7-2 歴史・文化遺産の継承	国宝旧開智学校校舎の保存と、来館者の安全性を高めるため、耐震対策工事を行うもの。また、保存活用計画を定め、工事終了後の国宝旧開智学校校舎の活用内容を検討するもの。	耐震対策工事実施期間中に防災設備工事、ユニバーサル化、売店棟の改修に取り組む。周辺地域を含めた工事後のよりよい活用に向けて、周辺住民や関係課と調整を行いながら検討を進める。	松本大学 総合経営学部 観光文化リテリ学科 学科長 畑井 治文 教授	後世にわたって国宝旧開智学校校舎を保存するためにも、耐震対策工事、防災設備工事は着実に前進させて頂きたい。市民学芸員をはじめとした市民との連携に重きを置きながら、今後の同施設の有効活用に資する「保存活用計画」の策定が急務であると考えている。

担当課	事務事業名	第11次基本計画基本施策	事業概要	現状に対する認識と今後の方向性	評価者	外部評価コメント
スポーツ推進課	プロスポーツ振興事業	7-3 スポーツを楽しむ環境の充実	プロスポーツの集客力・求心力を活かし、「みるスポーツ」等による地域振興や、プロスポーツチームや各種競技団体による専門的な技術指導等の提供により、競技スポーツ人口の拡大に繋げるなど、プロスポーツを活用することで地域活性化の推進、スポーツ振興を図るもの。	ホームゲーム等で市の施策や観光・特産品のPRを行うことで、効率的に多くの方にPR等を行うことが出来る。プロスポーツチームや各種競技団体による専門的な技術指導等の提供により、競技スポーツ人口の拡大に繋がる。新型コロナウイルス感染症拡大防止により事業の縮小等があったが、関係団体と調整して実施することができた。	松本大学 総合経営学部 観光文化・リテラシー学科 学科長 畑井 治文 教授	成果指標（中学部活動出前コーチング事業アンケート結果平均値）の目標値を低く設定し過ぎている印象を受ける。プロの方から中学生が指導を受ける場合、参加者の満足度は、総じて高くなることが予想される。当該指標を継続して用いる場合、目標値の再考を検討すべきではないかだろうか。
観光プロモーション課	観光宣伝事業	7-4 変化する時代の観光戦略	松本市観光ビジョンの具現化を図りながら、本市の特色を生かして、国内への積極的なプロモーション活動を展開するとともに、広域観光ルートの整備促進、受入態勢の整備、各種イベントの実施等により誘客促進を図るもの。	新型コロナウイルス感染症拡大防止により、イベントが中止になり、観光地の入込者数が激減しているため、ポストコロナのプロモーションが必要である。新たな観光コンテンツとして、夏の周遊促進キャンペーン及び松本城イルミネーションとの相乗効果を図った冬の宿泊促進キャンペーンを実施し、消費・滞在を伸ばす。市内で実施されるイベントを活用するとともに周辺自治体等と連携し、大都市圏及び就航先都市等からの誘客促進を図る。	松本大学 総合経営学部 観光文化・リテラシー学科 学科長 畑井 治文 教授	コロナ禍以降、国内旅行に対する潜在的需要は高くなっていると思われる。都市部へのプロモーションを拡充すると同時に、ここ数年増えている「松本シネマ認定作品」との連携、冬の宿泊促進キャンペーンなど、繁忙期以外にも安定的な入込者数を確保できるような取り組みに注力して頂きたい。
観光プロモーション課	観光団体育成事業	7-4 変化する時代の観光戦略	松本市及び周辺自治体並びに長野県等、他団体と連携した広域観光プロモーションに取り組むため、各種団体に負担金を支出するもの。また、各団体等に対して補助金を支出し、各地域の魅力発信及び誘客促進を図るもの。	新型コロナウイルス感染症拡大防止により、各種イベントが中止になり、観光地の入込者数が激減しているため、ポストコロナのプロモーションが必要。各団体と協力・連携しながら、各種イベントの開催や広告宣伝、誘客事業等効果的な事業展開を図るとともに、広域圏での観光誘客を推進する。各団体の特性を生かした事業展開のための支援を行い、観光振興を図る。	松本大学 総合経営学部 観光文化・リテラシー学科 学科長 畑井 治文 教授	観光プロモーションのために、観光団体と連携・協力することは重要であると思われる。効果的な予算の使い方を進めるためにも、現在の成果指標（松本市主要観光地入込者数）だけでなく、何らかの形で各団体に対する負担金・補助金の「費用対効果」を測定するように努めて頂きたい。
観光プロモーション課	国際観光都市推進事業	7-4 変化する時代の観光戦略	松本市を訪れる外国人旅行者を増やすため、プロモーションの実施および団体への負担金支出を行うもの。また、本市を訪れた外国人旅行者の消費・滞在を伸ばすため、受入環境の整備を行うもの。	近年、インバウンド市場が拡大し、松本市においても外国人宿泊者数はコロナ禍前は5年間で174.2%と大きく伸びたが、渡航制限がかかったため大きく落ち込んでいる。新型コロナウイルス収束後の集客回復のため、今のうちに松本市の認知度を向上させ、次の旅行先に選ばれよう、海外プロモーションの継続が必要	松本大学 総合経営学部 観光文化・リテラシー学科 学科長 畑井 治文 教授	コロナ禍収束後の集客回復に向けて、海外に向けた観光プロモーションの継続は重要であると思われる。コロナ禍においては、従来型のプロモーションだけでなく、新たな取り組みにも挑戦して頂きたい。例えば松本市内に在住する外国人の方を通じて、彼らの家族・友人・知人に松本市のPRを依頼するなど、「ヒト」を介したプロモーションを検討してみても良いかもしれない。
観光プロモーション課	観光戦略推進事業	7-4 変化する時代の観光戦略	「観光ビジョン」により、観光客誘致促進や滞在型観光を推進するため、アクションプランの実施や 観光大使を活用したプロモーションなど、効果的な観光施策の展開するもの。また、公式観光情報ポータルサイト「新まつもと物語」による情報発信強化により、誘客促進を図るもの。	令和4年度に観光データの調査・分析を行い、分析結果に基づいた検討を行い、次期ビジョンを策定する必要がある。個人旅行の需要拡大に伴い、SNS等を活用した情報発信が重要である。各観光大使の活動を通して、それぞれの分野を生かした松本の魅力を発信する。公式観光情報サイト「新まつもと物語」を活用し、より魅力のある情報発信を行う。	松本大学 総合経営学部 観光文化・リテラシー学科 学科長 畑井 治文 教授	コロナ禍以降、観光のあり方は、新たな局面を迎えていると思われる。令和4年度には観光データの調査・分析を行い、分析結果に基づいた検討を行うとのこと。一過性の事業（取り組み）に終始することなく、丁寧な調査・分析・検討を重ねることで、新たな時代に即した「観光ビジョン」を策定して頂きたい。
アルプスリゾート整備本部	山岳観光推進事業	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現	乗鞍高原周遊バスの運行や各種イベント等への負担金など、山岳観光事業の開催及び山岳イベント等を支援し、山岳地域への誘客促進を図るもの。	観光により山や自然が持つ魅力や価値を伝えるとともに、安全と利用のバランスや楽しむためのルールについても学習できる、SDGsに配慮した持続可能な観光地を目指していく必要がある。広域観光の視点から、二次交通の整備や自然だけでなく歴史文化など多彩で上質な体験と滞在ができるプログラムの開発及び情報発信の強化が必要	松本大学 総合経営学部 観光文化・リテラシー学科 学科長 畑井 治文 教授	山岳地域への誘客促進を図る上で、例えば乗鞍高原で始まったMTB（マウンテンバイク）トレイルなど、山岳観光の魅力伝える“新たな”取り組みに期待したい。そうした取り組みが軌道に乗るように、事業費にメリハリをつけながら行政としての支援策を模索して頂きたい。
アルプスリゾート整備本部	奈川観光施設事業	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現	市民等のウィンタースポーツの振興、地域の活性化及び雇用の創出を図るため、野妻峠スキー場の更なる利用促進に取り組むもの。	環境の変化（温暖化）に伴いシーズンを通して雪不足が深刻で、降雪機を稼働しオープンしている状況。地元奈川の人口減少、高齢化によりスキー場スタッフの確保に苦慮している。索道事業は安全が第一であり、リフトの点検や整備は欠かすことができないため、整備計画を立て維持管理に努めているが多額の費用が発生している。奈川地区の冬の観光事業の核となる施設であるため、グリーンシーズンの誘客を含めたスキー場の今後のあり方を奈川地区として検討していく。	松本大学 総合経営学部 観光文化・リテラシー学科 学科長 畑井 治文 教授	県内の他地域のスキー場では、グリーンシーズンの誘客に成功しているケースも見られる。索道事業にかかる多額の整備コストを回収するためにも、グリーンシーズンを含めて、通年を通じた誘客の仕組みを早急に検討する必要があると思われる。

担当課	事務事業名	第11次基本計画 基本施策	事業概要	現状に対する認識と今後の方向性	評価者	外部評価コメント
アルプスリゾート整備本部	上高地観光施設事業	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現	上高地アルペンホテルなどの施設を、地域活動の重要な施設として誰もが快適に過ごせるようおもてなしの向上を図るとともに、施設の適正な維持管理に努め、信頼され選ばれる施設として健全な経営につなげるもの。	新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2、3年度と観光業全体で大きな影響を受ける中、上高地についても例外ではなく、大きな影響を受けた。しかし、影響が落ち着きだした10月は、各宿泊施設で令和元年度並の利用者数となり、収束次第では上高地へ観光客が戻るのではないかと考えている。今後は、感染対策の徹底を継続するとともに、コロナ収束後に向けた、新たなツアーの造成、メニュー開発、また、SNSを活用した情報発信を強化し、収益の増加に取り組む。	松本大学 総合経営学部 観光文化・リテリ学科 学科長 畑井 治文 教授	コロナ禍の影響がどこまで続くかは不透明であるが、どのような状況下でも上高地には一定数の観光客が訪れると思われる。観光客の戻りに期待はしつつも、現時点では、まずは成果指標にも示されている「日本人観光消費額」を増やすための具体策（付加価値をつけたツアー・体験プログラムの開発など）を検討することに力点を置くべきではないだろうか。
観光プロモーション課	東山地域観光施設事業	7-5 世界に冠たる山岳リゾートの実現	東山地域の観光誘客を図るため、各種パンフレットの印刷及び観光施設等の維持管理を行うもの。	指定管理者や委託業者とともに運営や維持管理を行っている。今後も施設利用者が安全に施設利用できるよう、美ヶ原ロングトレイルマップ等を作成するとともに、施設の維持管理を継続していきたい。	松本大学 総合経営学部 観光文化・リテリ学科 学科長 畑井 治文 教授	今後の方向性で示されているマップ作成や施設の維持管理などは重要な取り組みではあるが、それだけで東山地域の観光客が増加する訳ではないと思われる。同地域の観光誘客のためには、ターゲットを明確化するとともに、これまでにない新機軸の事業を進めることが期待される。

事務事業評価票

部局名 文化観光部 課名 文化振興課

事務事業名	文化振興推進事業
-------	----------

<予算上の位置付け>

会計名	一般会計
予算中事業名	文化振興推進費

<事業の狙い>

事業計画年度

R3~R12

松本市の文化芸術の振興及びそのために必要な機能向上を図るための事業等を実施するもの
市民との協働による文化の醸成を図り、市民の文化芸術活動への参画・協力の機会を増やすために協力するもの

<事業の実施内容及び活動実績(実績値)>

1 実施内容	松本市文化芸術推進基本計画に基づく施策を推進し、松本市の文化芸術振興を図るもの(計画期間R3~R12)
2 活動実績	<ul style="list-style-type: none"> (1) 松本市文化芸術推進基本計画の策定 文化芸術基本法に基づき、R3年9月に策定 (2) 文化芸術表彰 功労賞2件、奨励賞1件 文化芸術活動において顕著な成果を取めた個人・団体及び地域の文化芸術振興に貢献した個人・団体を表彰するもの (3) 各種競技会・発表会出場者祝金交付(28件/年交付) 各種競技会・発表会等に出場する市民に対し、祝金を交付するもの (4) まつもと演劇祭補助金交付(コロナウイルス感染症拡大防止のため中止) 市内で活躍する演劇団体の演劇祭に対して補助するもの (5) アーティストバンクまつもと 松本市にゆかりのあるアーティストを掘り起こし、情報を集めて公開登録アーティスト数85団体・個人 (6) (一財)松本市芸術文化振興財団事務局事務 松本市芸術文化振興財団の運営に係る業務の一部委託

現状に対する認識	今後の方向性:	継続
松本市文化芸術推進基本計画を令和3年9月に策定し、計画に基づく施策の展開を実施する。計画では、他分野の連携により、課題解決や地域の活性化につなげることであり、庁内での連携が必須としており、令和4年度以降、計画に掲げる重点施策を中心に事業化に向けた協議を重ねていきたい。		

<第11次基本計画の位置付け・重点戦略>

基本施策名	7-1 豊かさを育む文化芸術の推進
5つの重点戦略	—
予算要求区分	経常経費

<市長公約の位置付け、予算要求区分>

市長公約	公約	3 産業・経済
主な取組み		○ クリエイティブ産業の育成、推進

<指標の達成状況>

総合評価

A

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 成果指標(指標名)	文化施設の来館者及び事業参加者数				
指標の設定理由	文化芸術に関わった実績を表す指標であるため				
目標値	149,100	194,325	239,550	284,775	330,000
実績値	220,124				
達成度	147.6%				
② 成果指標(指標名)					
指標の設定理由					
目標値					
実績値					
達成度					

<コスト一覧>

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 事業費(千円)	51,120				
国・県					
利用者負担金					
その他					
一般財源	51,120				
② 人件費(千円)	14,568	人工			
正規	13,662	1.8			
会計年度任用 (Ⅱ-17416、Ⅱ-17417-2類)	906	0.3			
会計年度任用 (Ⅱ-17416-3、4類)	0				
合計コスト①+②	65,688				

事務事業評価票

部局名 文化観光部 課名 文化振興課

事務事業名	市民との協働による舞台芸術イベントの開催
-------	----------------------

<第11次基本計画の位置付け・重点戦略>

<市長公約の位置付け、予算要求区分>

基本施策名	7-1 豊かさを育む文化芸術の推進	市長公約	公約	3 産業・経済
5つの重点戦略	—	市長公約	主な取組み	○ クリエイティブ産業の育成、推進
予算要求区分	経常経費			

<予算上の位置付け>

会計名	一般会計
予算中事業名	文化振興推進費

<事業の狙い>

事業計画年度 H20 ~

隔年開催の「信州・まつもと大歌舞伎」市民活動事業について、市民との協働による文化の醸成を図るとともに、「市民の文化芸術活動への参画・協力」の機会を増やすための事業へ協力するもの

<事業の実施内容及び活動実績(実績値)>

1 実施内容
隔年開催の「信州・まつもと大歌舞伎」市民活動事業について、市民との協働による文化の醸成を図るとともに、「市民の文化芸術活動への参画・協力」の機会を増やすための事業へ協力するもの

2 活動実績
第7回信州・まつもと大歌舞伎の関連事業や、ボランティアをはじめとする市民主体の公演運営等活動について、経費の一部を負担するもの

※ 第7回信州・まつもと大歌舞伎

- 1 演目 夏祭浪花鑑(なつまつり なにわかがみ)
- 2 日程 令和3年6月17日(木)~22日(火) 6日間 7公演
- 3 会場 まつもと市民芸術館 主ホール
- 4 主催 まつもと歌舞伎実行委員会(会長:井上保 松本商工会議所会頭)
- 5 関連事業
 - (1) 市民サポーター(登録者数:270人)
 - (2) 振り返り事業(これまでを振り返りとして、写真展及び冊子・映像を制作)
 - (3) まちの賑わい創出
(PR広告、街灯フラッグ、各商店へ自立型ポップ・ミニはんでん調バナー)
 - (4) 縁日横丁の設置
 - (5) 「筋書き」の作成・販売
 - (6) Web広報、事業報告書の作成

<現状に対する認識と今後の方向性>

現状に対する認識	今後の方向性:	継続
幅広い世代が文化芸術に親しめるとともに効果的に街なかの賑わいを創出するようイベント内容を検討する。		

<指標の達成状況>

区分	総合評価		A			
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
① 成果指標(指標名)	公演鑑賞者数及び関連事業来場者数					
指標の設定理由	文化芸術に関わった実績を表す指標であるため					
目標値	9,040人					
実績値	8,679人					
達成度	96.0%					
② 成果指標(指標名)	「市民サポーター」登録者数					
指標の設定理由	文化芸術に関わった実績を表す指標であるため					
目標値	330人					
実績値	270人					
達成度	81.8%					

<コスト一覧>

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 事業費(千円)	10,000				
国・県					
利用者負担金					
その他					
一般財源	10,000				
② 人件費(千円)	9,108	人工			
正規	9,108	1.2			
会計年度任用(ワ1916、ワ19161-2類)	0				
会計年度任用(ワ19163-4類)	0				
合計コスト①+②	19,108				

事務事業評価票

部局名 文化観光部 課名 文化振興課

事務事業名	まつもと市民芸術館事業
-------	-------------

<予算上の位置付け>

会計名	一般会計
予算中事業名	まつもと市民芸術館事業費

<事業の狙い>

事業計画年度

～

まつもと市民芸術館開館当初からの管理運営方針に従い、松本市民に世界的にも高い水準の芸術文化を創造・鑑賞する場を提供するとともに、市民の芸術文化創造とその支援及び発表の場、市民の交流の場となるよう事業を推進するもの。

<事業の実施内容及び活動実績(実績値)>

1 実施内容

まつもと市民芸術館を、貸館としての機能だけでなく、総監督である串田和美氏のもとクリエイション作品を提供するなどの自主事業を実施し、市民に質の高い芸術作品を提供している。

2 活動実績

まつもと市民芸術館自主事業実績				
年度	事業数	公演回数	集客数(人)	備考
H29年	37	102	103,285	実績
H30年	35	133	45,809	実績
R元年	34	111	97,174	実績
R2年	22	80	25,132	実績
R3年	27	110	42,110	実績

<現状に対する認識と今後の方向性>

現状に対する認識	今後の方向性:	拡充
「まつもと市民芸術館のこれからを考える専門家会議」の提言要旨に沿って検討を進める。		
1 芸術監督制は継続すべきであること		
2 次代を担う子どもたちのために必要とされる劇場とすること		
3 スタッフの充実を図ること 4 市民をパートナーとして協働をすすめること		
5 芸術文化に携わる者を養成すること		
6 芸術文化に必要な予算を確保すること		

<第11次基本計画の位置付け・重点戦略>

基本施策名	7-1 豊かさを育む文化芸術の推進
5つの重点戦略	—
予算要求区分	政策的経費

<市長公約の位置付け、予算要求区分>

市長公約	公約	3 産業・経済
市長公約	主な取組み	○ クリエイティブ産業の育成、推進

<指標の達成状況>

総合評価

A

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 成果指標(指標名)	文化施設の来館者数及び事業参加者数				
指標の設定理由	文化芸術に関わった実績を表す指標であるため				
目標値	92,000	124,000	156,000	188,000	220,000
実績値	162,593				
達成度	176.7%				
② 成果指標(指標名)					
指標の設定理由					
目標値					
実績値					
達成度					

<コスト一覧>

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 事業費(千円)	100,000				
国・県					
利用者負担金					
その他					
一般財源	100,000				
② 人件費(千円)	1,518	人工			
正規	1,518	0.2			
会計年度任用(Ⅱ-1イ、Ⅱ-1ロ、Ⅱ-1ハ1-2類)	0				
会計年度任用(Ⅱ-1イ、Ⅱ-1ハ3-4類)	0				
合計コスト①+②	101,518				

事務事業評価票

部局名 文化観光部 課名 国際音楽祭推進課

事務事業名	文化振興推進事業
-------	----------

<予算上の位置付け>

会計名	一般会計
予算中事業名	文化振興推進費

<事業の狙い>

事業計画年度

H29 ~

市民による企画・運営により、文化芸術活動をより身近なものにし、また同時に活動者の励みや生きがいを創出する。

<事業の実施内容及び活動実績(実績値)>

1 実施内容
 楽都・まつもとライブ
 地元有缘のある音楽団体等によるストリートライブの開催及びライブの後日配信

2 活動実績
 【令和3年度実績】(R4.3.31現在)
 ストリートライブ開催回数12回 出演者数 83人 延観客数5,080人

Web配信 配信コンテンツ数 23本 視聴回数 6,280回
 配信媒体:Facebook、Instagram、YouTube

<現状に対する認識と今後の方向性>

現状に対する認識	今後の方向性:	継続
・クラシック音楽に限らない楽都松本の魅力を市民とともに発信している。 ・市民や松本を訪れた方が気軽に音楽を楽しめる機会を提供するため、継続的な事業展開が必要 ・他課の事業との連携を強化する。		

<第11次基本計画の位置付け・重点戦略>

基本施策名	7-1 豊かさを育む文化芸術の推進
5つの重点戦略	—
予算要求区分	政策的経費

<市長公約の位置付け、予算要求区分>

市長公約	公約	3 産業・経済
主な取組み		○ クリエイティブ産業の育成、推進

<指標の達成状況>

区分	総合評価		A				
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
① 成果指標(指標名)	楽都・まつもとライブ来場者数及びwebライブ再生数						
指標の設定理由	ライブを通して音楽に触れた人数のため						
目標値	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000		
実績値	11,360						
達成度	94.7%						
② 成果指標(指標名)							
指標の設定理由							
目標値							
実績値							
達成度							

<コスト一覧>

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 事業費(千円)	370				
国・県					
利用者負担金					
その他					
一般財源	370				
② 人件費(千円)	5,158	人工			
正規	4,554	0.6			
会計年度任用 (I・II・III、IV・V・VI・VII・VIII・IX・X・XI・XII類)	604	0.2			
会計年度任用 (I・II・III・IV・V・VI・VII・VIII・IX・X・XI・XII類)	0				
合計コスト①+②	5,528				

事務事業評価票

部局名 文化観光部 課名 国際音楽祭推進課

事務事業名	国際音楽祭推進事業
-------	-----------

<予算上の位置付け>

会計名	一般会計
予算中事業名	国際音楽祭事業費

<第11次基本計画の位置付け・重点戦略>

基本施策名	7-1 豊かさを育む文化芸術の推進
5つの重点戦略	—
予算要求区分	政策的経費

<市長公約の位置付け、予算要求区分>

市長公約	公約	3 産業・経済
主な取組み		○ クリエイティブ産業の育成、推進

<事業の狙い>

事業計画年度

H4 ~

サイトウ・キネン・オーケストラによる世界最高水準の音楽祭を共催するとともに、フェスティバルを支援する市独自の関連事業を実施することで、交響管弦楽及びオペラ等音楽的総合舞台芸術の普及振興、次世代若手音楽家の育成、義務教育世代への音楽情操教育の支援、地域の活性化、文化芸術に触れる機会の創出に寄与する。

<事業の実施内容及び活動実績(実績値)>

1 実施内容	新型コロナウイルス感染症の影響により、全公演の開催及び一部関連事業が中止となった (1) セイジ・オザワ 松本フェスティバル 公演中止の代替事業として、開催予定であったプログラムのうちオーケストラコンサートBプログラムを無観客収録し全世界へ無料配信 (2) 支援事業・関連事業 ア 歓迎・装飾事業(歓迎フラッグの掲出、歓迎ディスプレイの設置) イ 広報・宣伝事業(広告掲載、ポスター・リーフレット等の作成・配布) ウ 環境整備事業(会場及び会場周辺の花装飾、告知看板等製作設置等) エ 関連イベント事業(フェスティバル展、歓迎演奏会「お城deハーモニー」等)
2 活動実績	(1) オーケストラコンサートBプログラム YouTube配信 ア 配信実施日 2021年9月3日、5日(2日間の限定配信) イ 視聴者数 延べ約12万人(最大同時視聴者数:約1万8千人) ※日本も含め29か国からアクセス (2) フェスティバル展 市内3会場での2019年フェスティバルの写真パネル等展示 [キッセイ文化ホール、八十二銀行ギャラリー、MIDORI松本店] (3) 歓迎演奏会「お城deハーモニー」 鑑賞者数:350人 (4) ウェルカムストリートライブ 鑑賞者数:500人

<現状に対する認識と今後の方向性>

現状に対する認識	今後の方向性:	継続
1992年のフェスティバル開幕以来、楽都・松本の象徴として西洋音楽を松本の地から世界に向け発信し続け、これまでの鑑賞者数は関連事業も含め延べ200万人を超える。(2020・2021年は新型コロナウイルス感染症の影響により公演中止) ポストコロナ時代、適切な感染対策を図りつつ文化・芸術が楽しめる環境を整え、心豊かな社会の実現及びまちの賑わい創出を目指すため、今年で30周年を迎える「セイジ・オザワ 松本フェスティバル」を今後も引き続き支援するとともに、開催都市として関連事業の一層の充実に努める。		

<指標の達成状況>

総合評価

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 成果指標(指標名)	OMFを鑑賞して、自分も音楽などの文化・芸術活動をやってみたいと思った人の割合				
指標の設定理由	松本市総合計画(第11次基本計画)の成果指標				
目標値	63.1	64.9	66.6	68.3	70.0
実績値	—				
達成度	—				
② 成果指標(指標名)					
指標の設定理由					
目標値					
実績値					
達成度					

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 事業費(千円)	170,604				
国・県	16,178				
利用者負担金					
その他					
一般財源	154,426				
② 人件費(千円)	23,652	人工			
正規	18,216	2.4			
会計年度任用(7月1日、10月1日、2月1日)	5,436	1.8			
会計年度任用(10月1日、3月1日)	0				
合計コスト①+②	194,256				

事務事業評価票

部局名 文化観光部 課名 美術館

事務事業名	美術館事業
-------	-------

<予算上の位置付け>

会計名	一般会計
予算中事業名	美術館事業費

<事業の狙い>

事業計画年度

～

市民の芸術文化の振興を図り、文化の薫り高い豊かな市民生活に資するため、美術館が目指す4つの柱(鑑賞・表現・学習・交流の場)を踏まえた事業を実施する。

<事業の実施内容及び活動実績(実績値)>

- 1 展覧会事業
令和3年度は、大規模改修工事による休館のため美術館での展覧会事業はなし。
- 2 草間彌生顕彰事業
美術館休館中、まちなかアートプロジェクトの一環として開催した「パルコde美術館」で《天国への梯子》、《大いなる巨大な南瓜》を公開。その他、野外彫刻《幻の華》のメンテナンス実施、リニューアルオープン後の拡大展示準備、パンフレット印刷等を行った。
- 3 教育普及事業
公民館連携講座、館外での美術講座、ワークショップを開催
実施数43 参加人数960人
- 4 保存管理事業
作品の保存管理や展示のため、修復・額装を行った。
〈修復・額装実績〉日本画等修復4点、額装270点

<現状に対する認識と今後の方向性>

現状に対する認識	今後の方向性:	継続
優れた芸術作品の鑑賞の機会を提供すること、地域に根ざす総合美術館として、鑑賞、表現、学習、交流という、美術館が目指す4つの柱に沿って事業を行う。		

<第11次基本計画の位置付け・重点戦略>

<市長公約の位置付け、予算要求区分>

基本施策名	7-1 豊かさを育む文化芸術の推進	市長公約	公約	3 産業・経済
5つの重点戦略	人口定常化戦略	市長公約	主な取組み	○ クリエイティブ産業の育成、推進
予算要求区分	経常経費・政策的経費			

<指標の達成状況>

総合評価

A

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 成果指標(指標名)	企画展の観覧者数(人)				
指標の設定理由	PRなど、市民等への周知が充分であるか測定できるため				
目標値	—	75,000	64,000	64,000	64,000
実績値	R3年度休館				
達成度	—				
② 成果指標(指標名)	講座等への参加者数(人)				
指標の設定理由	時代のニーズにあう講座が開催されたか測定できるため				
目標値	320	700	700	700	700
実績値	960				
達成度	300.0%				

<コスト一覧>

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 事業費(千円)	36,312				
国・県	0				
利用者負担金	0				
その他	0				
一般財源	36,312				
② 人件費(千円)	43,990	人工			
正規	37,950	5			
会計年度任用 (Ⅱ-1741、Ⅱ-1741-2類)	6,040	2			
会計年度任用 (Ⅱ-1741-3、4類)	0				
合計コスト①+②	80,302				

事務事業評価票

部局名 教育部 課名 生涯学習課

事務事業名	芸術文化事業
-------	--------

<第11次基本計画の位置付け・重点戦略>

<市長公約の位置付け、予算要求区分>

基本施策名	7-1	豊かさを育む文化芸術の推進	市長公約	公約	—
5つの重点戦略		—	市長公約	主な取組み	—
予算要求区分		経常経費			

<予算上の位置付け>

会計名	一般会計
予算中事業名	芸術文化事業費

<事業の狙い>

事業計画年度

～

多くの市民が気軽に楽しく文化芸術にふれあう機会を創出し、市民の主体的、継続的な文化芸術活動の促進を図るもの

<事業の実施内容及び活動実績(実績値)>

1 内容

(1) 松本市芸術文化祭事業
地域に根ざした文化芸術を育むために、「松本市芸術文化祭実行委員会」へ委託し通年発表会や公演、展示会を開催するもの

(2) お城盆踊り
市の象徴、国宝松本城のもとで郷土愛を育み、市民と観光客等の交流を図り、松本らしい文化を継承する盆踊りを開催するもの

2 令和3年度実績

(1) 松本市芸術文化祭（参加者数5,094人）
上演部門は昨年度に比べて、事業が実施できた（9→11事業）
展示部門は、美術館の休館やコロナの影響で、入場者が減少
実施率：上演の部11/21=52%、展示の部6/10=60%
委託料：2080千円

(2) お城盆踊り
新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンラインでの無観客開催とし、動画をYouTubeにて配信
委託料：84千円

<指標の達成状況>

総合評価

C

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 成果指標(指標名)	松本市芸術文化祭への参加者数(人)				
指標の設定理由	事業実施状況を直接的に測定できるため				
目標値	22,100	22,100	22,100	22,100	22,100
実績値	5,094				
達成度	23.0%				
② 成果指標(指標名)	お城盆踊り参加者数及びYouTube視聴回数				
指標の設定理由	事業実施状況を直接的に測定できるため				
目標値	300	800	800	800	800
実績値	213				
達成度	71.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

<コスト一覧>

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 事業費(千円)	2,164				
国・県					
利用者負担金					
その他					
一般財源	2,164				
② 人件費(千円)	2,579	人工			
正規	2,277	0.3			
会計年度任用(Ⅱ形ⅡⅡ、ⅡⅢ形ⅡⅡⅠ・ⅡⅡⅡ)	302	0.1			
会計年度任用(ⅡⅣ形ⅡⅡⅢ・ⅡⅡⅣ)	0				
合計コスト①+②	4,743				

現状に対する認識

今後の方向性:

継続

・市民による文化芸術活動の発展の場とともに、創造性や感性を育み、人生に生きがいや感動を与える機会となってきたが、高齢化が進んでいる。また、コロナウイルスの影響で、イベントの準備や練習が制限されることから、今後のコロナの状況によっては開催が難しい点がある。
・盆踊りを継承していくために、広報媒体や内容について検討していく必要がある。

事務事業評価票

部局名 文化観光部 課名 文化振興課

事務事業名	松本城世界遺産推進事業
-------	-------------

<予算上の位置付け>

会計名	一般会計
予算中事業名	松本城世界遺産推進事業費

<事業の狙い>

事業計画年度

H13~R12

国宝松本城を保護・保存し、次世代へ継承するために、松本城の世界文化遺産登録を目指す過程で、登録の前提となる国内の「世界文化遺産暫定一覧表」記載に必要な調査研究及び市民への普及啓発を実施するもの。

<事業の実施内容及び活動実績(実績値)>

1 実施内容

- (1) 松本城世界遺産調査研究事業
 - ア 文化庁の審議結果に係る課題を解決するための調査研究事業
 - イ 姫路城を含む国宝5城「近世城郭の天守群」のシリアル・ノミネーション(連続する資産)での登録へ向けた関係区市等との連携推進
 - (2) 松本城世界遺産普及啓発事業

「国宝松本城を世界遺産に」推進実行委員会における、市民と行政等の協働による普及啓発事業を実施し、松本城の現状や世界遺産登録に向けた取組み等について、市民へ広く周知する。

2 活動実績

- (1) 松本城世界遺産調査研究事業
 - ア 近世城郭群世界遺産登録推進会議準備会 4回
 - イ (仮称)松本城世界遺産調査研究に係る連絡会議 3回
- (2) 松本城世界遺産普及啓発事業

市内町会等のポスター掲出 711か所、パネル展示172名、若者を対象とした学習会 54名、絵画コンクール 198点、出張学習会 25名、松本城検定クイズ 244名、「わたしが決める「松本城の日」」101件、35地区普及啓発事業 17名、3市市民交流事業 11名、親子探検ツアー 37名、書籍『松本城のすべて世界遺産登録を目指して』300部、「松本城の日」全面広告 及び SBC信越放送ラジオ「もっとまつもと！」など

現状に対する認識 今後の方向性: 拡充

「世界文化遺産暫定一覧表」の見直しに向けて、文化庁が動き出している。こうした状況であることから、松本城の世界遺産登録を目指し、更なる調査研究及び市民への普及啓発など活動を広げていく。

<第11次基本計画の位置付け・重点戦略>

基本施策名	7-2	歴史・文化遺産の継承
5つの重点戦略	—	
予算要求区分	政策的経費	

<市長公約の位置付け、予算要求区分>

市長公約	公約	3 産業・経済
主な取組み	○ 松本城や周辺区域の総合的整備(歴史観光エリア、セントラルパーク)	

<指標の達成状況>

総合評価

A

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 成果指標(指標名)	世界遺産推進事業に参加した人数(累計)				
指標の設定理由	世界遺産登録に向けた事業に参加した人数で市民の広がりを把握するため				
目標値	11,000	13,000	15,000	17,000	19,000
実績値	14,694				
達成度	133.6%				
② 成果指標(指標名)					
指標の設定理由					
目標値					
実績値					
達成度					

<コスト一覧>

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 事業費(千円)	4,980				
国・県					
利用者負担金					
その他	4,980				
一般財源					
② 人件費(千円)	15,180	人工			
正規	15,180	2			
会計年度任用(7月1日、10月1日、2月1日)	0				
会計年度任用(10月1日、3月1日)	0				
合計コスト①+②	20,160				

事務事業評価票

部局名 教育部 課名 文化財課

事務事業名	まつもと文化遺産活用事業
-------	--------------

<第11次基本計画の位置付け・重点戦略>

<市長公約の位置付け、予算要求区分>

基本施策名	7-2	歴史・文化遺産の継承	市長公約	公約	—
5つの重点戦略		—	市長公約	主な取組み	—
予算要求区分		政策的経費			

<予算上の位置付け>

会計名	一般会計
予算中事業名	まつもと文化遺産活用事業

<事業の狙い>

事業計画年度

R1~

文化財保存活用のアクションプランとして平成30年度に策定した松本市文化財保存活用地域計画に基づき、文化財の活用を図るものです。従来の指定制度による文化財の保存、活用に加え、未指定文化財を含めた面的な活用を図り、地域住民の文化財を活用した地域づくり、まちづくりにつなげていくものです。

<事業の実施内容及び活動実績(実績値)>

1 実施内容

- 「まつもと文化遺産」の認定と活用事業の支援
各地区における関連文化財群(*)の保存活用の活動を「まつもと文化遺産」として認定し、活動に対し補助金交付等により支援するもの
- まつもと文化遺産保存活用協議会(以下、協議会)の開催
平成30年度に設置した協議会において、「まつもと文化遺産」の認定及び文化財の活用策について検討するもの

2 活動実績(令和3年度実績)

- 「まつもと文化遺産」の新規認定なし(認定件数5件)
- 協議会を2回開催し、まつもと文化遺産の認定新村地区の実地検証、ロゴ、補助事業評価方法を検討
- 認定済みの「まつもと文化遺産」5件に対し補助金を交付
- 文化財の魅力等の情報発信のため、ホームページ、フェイスブックに続きInstagramを開設
- 認定候補団体への相談支援

*関連文化財群

松本市歴史文化基本構想の策定の際、各地区において、指定の有無を問わず関係する文化財を群としてとらえ、「関連文化財群」として設定したものを。

<現状に対する認識と今後の方向性>

現状に対する認識	今後の方向性:	継続
----------	---------	----

- 歴史文化基本構想の策定時に、地域主体で文化財調査を行なったことで、調査成果を活用する動きと文化財を地域で保護する機運を醸成することができた。
- 「まつもと文化遺産」の認定により、市民による地域の文化財の保存活用を支援するとともに、地域の文化財を広く周知する必要がある。

<指標の達成状況>

総合評価

A

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 成果指標(指標名)	まつもと文化遺産認定件数				
指標の設定理由	市民による地域の文化財の保存活用の実績であるため				
目標値	6	7	8	9	10
実績値	5				
達成度	83.3%				
② 成果指標(指標名)					
指標の設定理由					
目標値					
実績値					
達成度					

<コスト一覧>

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 事業費(千円)	352				
国・県	87				
利用者負担金					
その他					
一般財源	265				
② 人件費(千円)	7,590	人工			
正規	7,590	1			
会計年度任用(7月1日、10月1日、12月1日)	0	0			
会計年度任用(10月1日、12月1日)	0				
合計コスト①+②	7,942				

事務事業評価票

部局名 教育部 課名 文化財課

事務事業名	松本城学びと研究事業
-------	------------

＜第11次基本計画の位置付け・重点戦略＞		＜市長公約の位置付け、予算要求区分＞	
基本施策名	7-2 歴史・文化遺産の継承	市長公約	公約
5つの重点戦略	—	主な取組み	—
予算要求区分	経常経費		

＜予算上の位置付け＞

会計名	松本城特別会計
予算中事業名	松本城学びと研究事業

＜事業の狙い＞

事業計画年度	～
--------	---

松本城を共有の宝として後世に引き継ぐため、市民が生涯にわたって自ら主体的に学び続けていくきっかけとなるよう、これまでの調査・研究成果を基に、松本城に関する学びの機会を提供するもの。

＜事業の実施内容及び活動実績(実績値)＞

1 実施内容
(1) 松本城についての学びの場(機会)の提供
2 活動実績
・松本城の歴史・夏休み子ども勉強会(15組 33人)
・松本城講座 鉄砲蔵見学会(20人)
・城郭関係遺構(南外堀)発掘調査報告会(20人)
・動画(You Tube) 2本配信
「まつもとクイズ 松本城下町～古絵図片手に街歩き編～ (前編)」
「まつもとクイズ 松本城下町～古絵図片手に街歩き編～ (後編)」

＜現状に対する認識と今後の方向性＞

現状に対する認識	今後の方向性:	継続
・松本城を身近に感じてもらうため、学びの場(機会)提供としての事業は継続 ・機会の提供にあたっては、実体験的なものから、画像・映像・音声を活用したの まで、種類を幅広く用意する		

＜指標の達成状況＞

	総合評価	A			
区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 成果指標(指標名)	勉強会等の参加人数(人)				
指標の設定理由	松本城についての学習状況(学びを行っている者)の状況を把握できるため				
目標値	60	60	60	60	60
実績値	77				
達成度	128.3%				
② 成果指標(指標名)					
指標の設定理由					
目標値					
実績値					
達成度					

＜コスト一覧＞

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 事業費(千円)	550				
国・県					
利用者負担金					
その他(松本城特会)	550				
一般財源					
② 人件費(千円)	604	人工			
正規	0				
会計年度任用 (7/24(6), 8/1-24(11-2類))	604	0.2			
会計年度任用 (8/1-24(13-4類))	0				
合計コスト①+②	1,154				

事務事業評価票

部局名 教育部 課名 文化財課

事務事業名	堀浄化対策事業
-------	---------

＜第11次基本計画の位置付け・重点戦略＞		＜市長公約の位置付け、予算要求区分＞	
基本施策名	7-2 歴史・文化遺産の継承	市長公約	3 産業・経済
5つの重点戦略	—	主な取組み	○ 松本城や周辺区域の総合的整備(歴史観光エリア、セントラルパーク)
予算要求区分	経常経費・政策的経費		

＜予算上の位置付け＞	
会計名	松本城特別会計
予算中事業名	堀浄化対策事業

＜事業の狙い＞	事業計画年度	H25～R7
松本城の堀(内堀、外堀、総堀)の堆積物除去及び水質浄化を実施し、快適な公園環境・見学環境の維持向上を図るもの。		

＜事業の実施内容及び活動実績(実績値)＞

1 実施内容
(1) 堀堆積物の除去(浚渫)に向けた、松本城の堀に適した浚渫工法の選定
(2) 令和5年度からの浚渫工事着手に向けた、浚渫及び浚渫後の堀の維持管理に係る計画(以下、「基本計画」という。)の策定
(3) 年間を通じての堀の定期清掃と、堀の水質浄化及び堆積物改善のための薬剤(酸化マグネシウム)散布
2 活動実績
(1) 令和2年度に実施した実証実験(3工法)の中から、松本城の堀に適した浚渫工法(1工法)を選定
(2) 基本計画を策定
(3) 水質の悪化が激しくみられる内堀、外堀の5力所(計2,250㎡)に、薬剤45袋(1袋/20kg)を散布
(4) 定期的な堀の清掃の実施

＜現状に対する認識と今後の方向性＞

現状に対する認識	今後の方向性:	継続
・松本城堀の水質浄化のためには、堆積物で埋まりつつある堀の全面的な浚渫工事(堆積物除去)が必要である。 ・工事にあたっては、遺構への影響を与えぬよう、また、観光客や市民に配慮しながら松本城の堀に適した手法を用い、広大な内堀、外堀、総堀を計画的に実施する。 ・浚渫工事実施までは、薬剤の散布による水質浄化を図るほか、日常的な清掃等により堀の維持管理を行う。浚渫工事後は基本計画に基づく堀の水質等の維持管理を行う。		

＜指標の達成状況＞	総合評価	A			
区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 成果指標(指標名)	堀の浚渫面積(㎡)				
指標の設定理由	浚渫面積の実施状況を把握するため				
目標値	0	0	10,820	13,364	4,864
実績値					
達成度					
② 成果指標(指標名)	水質浄化用の薬剤散布面積(㎡)				
指標の設定理由	水質浄化の実施状況を把握するため				
目標値	2,250	2,250	0	0	0
実績値	2,250				
達成度	100.0%				

＜コスト一覧＞

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 事業費(千円)	2,690				
国・県					
利用者負担金					
その他(松本城特会)	2,690				
一般財源					
② 人件費(千円)	5,313	人工			
正規	5,313	0.7			
会計年度任用(7/24(4)、R1～R4(1-2類))	0				
会計年度任用(R1～R4(3-4類))	0				
合計コスト①+②	8,003				

事務事業評価票

部局名 教育部 課名 博物館

事務事業名	まる博構想推進事業
-------	-----------

<予算上の位置付け>

会計名	一般会計
予算中事業名	博物館事業費

<事業の狙い>

事業計画年度

～

平成12年度に策定した松本まるごと博物館構想に基づき、博物館が市民協働や博物館連携事業を実施することにより、学びを通じた「ひとつづくり」「まちづくり」を推進する。

<事業の実施内容及び活動実績(実績値)>

- 博物館まつり
市民学芸員や友の会が実行委員会を組織してワークショップ等を開催。
(1) 事業名 博物館まつり
(2) 実施日 コロナにより延期
- 市民学芸員養成講座事業
博物館とともに地域の文化財に対する学習・調査や、博物館の普及公開活動を行う人材を育成するための講座。
(1) 事業名 市民学芸員養成講座
(2) 主な会場 旧制高等学校記念館
(3) 実施期間 平成3年6月～令和4年2月(全9回)
(4) 修了者 8名(累計85名)
- 市民学芸員のワークショップ及び講座の実施。
これまでの養成者を対象としたステップアップ講座、修了生がグループで、七夕、あめ市、ひな祭りの講座を実施。

<現状に対する認識と今後の方向性>

現状に対する認識	今後の方向性:	拡充
<ul style="list-style-type: none"> 市民学芸員の養成は今後も継続的に進めていく。 新博物館の1階活用について、市民学芸員や友の会と協力しながら1階のにぎわいづくりを行う。 市民の皆さんが博物館での学びにより、松本の魅力に気づき、その成果を発信することにより、多くの市民に学びの輪が広まり、その魅力を更に高めようとするのでまちづくりへの寄与を図る。 		

<第11次基本計画の位置付け・重点戦略>

基本施策名	7-2	歴史・文化遺産の継承
5つの重点戦略	—	
予算要求区分	経常経費	

<市長公約の位置付け、予算要求区分>

市長公約	公約
市長公約	主な取組み

<指標の達成状況>

区分	総合評価		A		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 成果指標(指標名)	累計市民学芸員養成数(人)				
指標の設定理由	市民学芸員の普及度を測るためのもの。				
目標値	85	93	101	109	117
実績値	85				
達成度	100.0%				
② 成果指標(指標名)	市民学芸員の事業開催数				
指標の設定理由	市民学芸員の活動数を測るためのもの。				
目標値	12	12	24	24	24
実績値	16				
達成度	133.3%				

<コスト一覧>

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 事業費(千円)	0				
国・県					
利用者負担金					
その他					
一般財源	0				
② 人件費(千円)	1,896	人工			
正規	1,518	0.2			
会計年度任用(ワ19416、ワ19417-2類)	0				
会計年度任用(ワ194163-4類)	378	0.2			
合計コスト①+②	1,896				

事務事業評価票

部局名 教育部 課名 博物館

事務事業名	博物館事業
-------	-------

<予算上の位置付け>

会計名	一般会計
予算中事業名	博物館事業費

<事業の狙い>

事業計画年度

松本市立博物館本館と分館15館で、各施設の特徴を生かした、資料の収集・保管、調査研究、展示、講座・講演会等を実施し、歴史・文化遺産に対する市民の理解を深めること。

<事業の実施内容及び活動実績(実績値)>

- 博物館資料の収集・保管業務
 - 収蔵資料・図書資料の資料整理・登録(全館)
 - 各館収蔵資料、寄贈資料を博物館資料管理システムに登録するもの
 - 各館所蔵図書、新規寄贈・交換図書を同上システムに登録するもの
 - 保存処理業務 フィルムの保存処理等
- 常設展、特別展・企画展の実施

新型コロナウイルス感染症対策をとりながら、開催できる事業を随時開催

 - 市立博物館(本館)は建替のため休館中
 - 分館=「開智学校と地震」(開智学校)、「いきものなまえ」(山と自然博物館)等
- 講座・講演会の実施

時計博物館でSPLレコードコンサート、山と自然博物館で自然観察会等
- 各種印刷物の刊行
 - 館ニュース「あなたと博物館」(年6回発行) 各5,000部
 - 『松本の子どもの短歌 2022』 発行7,700部 など

<現状に対する認識と今後の方向性>

現状に対する認識	今後の方向性:	継続
・資料整理については、全館継続的に事業を進めていく。 ・特別展・企画展は、令和5年まで休館する本館及び令和6年まで休館する旧開智学校以外で、感染症対策をとりながら進めていく。		

<第11次基本計画の位置付け・重点戦略>

基本施策名	7-2	歴史・文化遺産の継承
5つの重点戦略	—	
予算要求区分	経常経費	

<市長公約の位置付け、予算要求区分>

市長公約	公約
市長公約	主な取組み

<指標の達成状況>

区分	総合評価		A		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 成果指標(指標名)	博物館で開催する事業の参加者満足度				
指標の設定理由	博物館事業に対する市民の満足度を具体的に測定できるため				
目標値	100	100	100	100	100
実績値	90				
達成度	90.0%				
② 成果指標(指標名)	本館資料登録数				
指標の設定理由	博物館資料の収集・保存活動状況を測定できるため。				
目標値	71,005	75,005	79,005	83,005	87,005
実績値	72,426				
達成度	102.0%				

<コスト一覧>

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 事業費(千円)	33,840				
国・県					
利用者負担金					
その他					
一般財源	33,840				
② 人件費(千円)	79,107	人工			
正規	34,155	4.5			
会計年度任用 (7月1日、10月1日、2月1日)	22,650	7.5			
会計年度任用 (10月1日、3月1日)	22,302	11.8			
合計コスト①+②	112,947				

事務事業評価票

部局名 教育部 課名 博物館

事務事業名	国宝旧開智学校校舎保存活用事業
-------	-----------------

<第11次基本計画の位置付け・重点戦略>

<市長公約の位置付け、予算要求区分>

基本施策名	7-2	歴史・文化遺産の継承	市長公約	公約	3 産業・経済
5つの重点戦略	—		主な取組み	○ 松本城や周辺区域の総合的整備(歴史観光エリア、セントラルパーク)	
予算要求区分	政策的経費				

<予算上の位置付け>

会計名	一般会計
予算中事業名	旧開智学校校舎保存活用事業費

<事業の狙い>

事業計画年度

H28~

国宝旧開智学校校舎の保存と、来館者の安全性を高めるため、耐震対策工事を行うもの。また、保存活用計画を定め、工事終了後の国宝旧開智学校校舎の活用内容を検討するもの。

<事業の実施内容及び活動実績(実績値)>

1 実施内容
(1) 保存活用計画策定
(2) 耐震対策工事
(3) 防災設備工事
2 活動実績
(1) 保存活用に向けた取り組み
① 旧開智学校校舎周辺整備計画庁内検討会議開催(R元~2)
② 旧開智学校校舎保存活用計画策定庁内検討委員会開催(R2~3)
③ R4年度に防災設備工事着工するため、防災計画を保存活用計画に先行して策定(R2)
④ 保存活用計画策定予定(R4)
(2) 耐震対策工事
① 耐震基礎診断の実施(H28~29)
② 耐震対策工事実施設計(R2)
③ 耐震対策工事着工(R3)
(3) 防災設備工事
防災設備工事実施設計及び工事着工予定(R4)

<指標の達成状況>

総合評価

A

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 成果指標(指標名)	活用計画策定及び工事進捗状況(%)				
指標の設定理由	令和6年度秋頃開館				
目標値	50	80	90	100	
実績値	40				
達成度	80.0%				
② 成果指標(指標名)					
指標の設定理由					
目標値					
実績値					
達成度					

<コスト一覧>

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 事業費(千円)	46,575				
国・県	23,369				
利用者負担金					
その他					
一般財源	23,206				
② 人件費(千円)	7,590	人工			
正規	7,590	1			
会計年度任用 (Ⅱ-17416、Ⅱ-17417・2類)	0	0			
会計年度任用 (Ⅱ-17416・3・4類)	0	0			
合計コスト①+②	54,165				

現状に対する認識	今後の方向性:	継続
・耐震対策工事実施期間中に防災設備工事、ユニバーサル化、売店棟の改修に取り組む。 ・周辺地域を含めた工事後のよりよい活用に向けて、周辺住民や関係課と調整を行いながら検討を進める。		

事務事業評価票

部局名 文化観光部 課名 スポーツ推進課

事務事業名	プロスポーツ振興事業
-------	------------

<予算上の位置付け>

会計名	一般会計
予算中事業名	プロスポーツ振興事業費

<事業の狙い>

事業計画年度

H27~R8

プロスポーツの集客力・求心力を活かし、「みるスポーツ」等による地域振興や、プロスポーツチームや各種競技団体による専門的な技術指導等の提供により、競技スポーツ人口の拡大に繋げるなど、プロスポーツを活用することで地域活性化の推進、スポーツ振興を図るもの

<事業の実施内容及び活動実績(実績値)>

- 松本山雅FC
 - ホームタウンデーの実施
ホームタウン4市2町3村合同により市の施策や観光・特産品をPR
 - 松本市・鹿児島市文化・観光交流都市デーの実施
鹿児島市と連携して市の施策や観光・特産品をPR
 - 中学部活動出前コーチングを明善中、菅野中、梓川中にて実施 67人参加 ※波田中はコロナにより未実施(令和4年度実施)
- 信濃グランセローズ
 - 中学部活動出前コーチングを女鳥羽中、清水中、会田中、鉢盛中にて実施 38人参加
 - 松本市野球場の優先使用
- 信州プレイブウォリアーズ
 - 中学部活動出前コーチングを清水中(山辺、清水)、信明中、筑摩野中(筑摩野、才教学園、松本国際)、明善中にて実施 197人参加
 - 松本市総合体育館の優先使用
- VC長野トライデンツ
 - 中学部活動出前コーチングを旭町中(女鳥羽、旭町、信大付属)、総合体育館(丸ノ内、鎌田、松島)、開成中にて実施 115人参加 ※信明中・高綱中はコロナにより未実施(令和4年度実施)
 - 松本市総合体育館の優先使用
 - ホームタウンパートナー協定を締結(10月15日)

<現状に対する認識と今後の方向性>

現状に対する認識	今後の方向性:	継続
ホームゲーム等で市の施策や観光・特産品のPRを行うことで、効率的に多くの方にPR等を行うことが出来る。プロスポーツチームや各種競技団体による専門的な技術指導等の提供により、競技スポーツ人口の拡大に繋がる。 新型コロナウイルス感染症拡大防止により事業の縮小等があったが、関係団体と調整して実施することができた。		

<第11次基本計画の位置付け・重点戦略>

<市長公約の位置付け、予算要求区分>

基本施策名	7-3	スポーツを楽しむ環境の充実	市長公約	公約	—
5つの重点戦略		人口定常化戦略	市長公約	主な取組み	—
予算要求区分		政策的経費			

<指標の達成状況>

総合評価

A

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 成果指標(指標名)	松本山雅FCホームタウンデー松本市ブース来場者数(人)				
指標の設定理由	来客数=関心度=成果				
目標値	1000	1500	2000		
実績値	1000				
達成度	100.0%				
② 成果指標(指標名)	中学部活動出前コーチング事業アンケート結果平均値(5段階評価)				
指標の設定理由	参加者の満足度・チーム知名度=成果				
目標値	3.0	3.5	4.0		
実績値	4.1				
達成度	100.0%				

<コスト一覧>

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 事業費(千円)	4,560				
国・県					
利用者負担金					
その他					
一般財源	4,560				
② 人件費(千円)	7,590	人工			
正規	7,590	1			
会計年度任用(Ⅱ-174141-2類)	0				
会計年度任用(Ⅱ-174143-4類)	0				
合計コスト①+②	12,150				

事務事業評価票

部局名 文化観光部 課名 観光プロモーション課

事務事業名	観光宣伝事業
-------	--------

<予算上の位置付け>

会計名	一般会計
予算中事業名	観光宣伝事業費

<事業の狙い>

事業計画年度

松本市観光ビジョンの具現化を図りながら、本市の特色を生かして、国内への積極的なプロモーション活動を展開するとともに、広域観光ルートの整備促進、受入態勢の整備、各種イベントの実施等により誘客促進を図るもの。

<事業の実施内容及び活動実績(実績値)>

- 1 広告宣伝事業
 - (1)パンフレット等の作成
 - (2)高速バスラッピング広告
- 2 首都圏等誘客促進事業

商談会参加、観光情報の発信
- 3 就航先都市誘客促進事業
 - (1)札幌(新千歳・丘珠)・福岡・大阪・神戸営業活動
 - (2)松本観光コンベンション協会福岡営業所の運営
 - (3)旅行代理店への助成制度
 - (4)就航先のメディアを活用した利用促進PR
- 4 受入体制整備事業

観光案内所運営事業、松本まちなか観光ボランティア運営事業
- 5 県内都市連携事業

上田市連携バス運行事業
- 6 負担金
 - (1)国宝松本城太鼓まつり・光と氷の城下町フェスティバル
 - (2)ツール・ド・美ヶ原高原自転車レース(中止)
 - (3)夏まつり松本ぼんぼん(中止)
 - (4)北陸・飛騨・信州3つ星街道協議会
 - (5)美ヶ原高原直行バス運行事業
 - (6)福寿草まつり(中止)

<現状に対する認識と今後の方向性>

現状に対する認識	今後の方向性:	拡充
・新型コロナウイルス感染症拡大防止により、イベントが中止になり、観光地の入込者数が激減しているため、ポストコロナのプロモーションが必要である。 ・新たな観光コンテンツとして、夏の周遊促進キャンペーン及び松本城イルミネーションとの相乗効果を図った冬の宿泊促進キャンペーンを実施し、消費・滞在を伸ばす。 ・市内で実施されるイベントを活用するとともに周辺自治体等と連携し、大都市圏及び就航先都市等からの誘客促進を図る。		

<第11次基本計画の位置付け・重点戦略>

<市長公約の位置付け、予算要求区分>

基本施策名	7-4	変化する時代の観光戦略	市長公約	公約	3 産業・経済
5つの重点戦略		ポストコロナ戦略	主な取組み	○ 松本城や周辺区域の総合的整備(歴史観光エリア、セントラルパーク)	
予算要求区分		経常経費・政策的経費			

<指標の達成状況>

総合評価

A

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 成果指標(指標名)	松本市主要観光地入込者数				
指標の設定理由	各種プロモーション活動の成果を測れるため				
目標値	3,000,000	3,985,000	4,980,000	5,220,000	5,470,000
実績値	2,628,196				
達成度	87.6%				
② 成果指標(指標名)					
指標の設定理由					
目標値					
実績値					
達成度					

<コスト一覧>

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 事業費(千円)	169,820				
国・県					
利用者負担金					
その他					
一般財源	169,820				
② 人件費(千円)	25,790	人工			
正規	22,770	3			
会計年度任用(7月1日～12月31日)	3020	1			
会計年度任用(1月1日～6月30日)	0				
合計コスト①+②	195,610				

事務事業評価票

部局名: 文化観光部 課名: 観光プロモーション課

事務事業名	観光団体育成事業
-------	----------

<予算上の位置付け>

会計名	一般会計
予算中事業名	観光団体育成事業費

<事業の狙い>

事業計画年度

～

本市及び周辺自治体並びに長野県等、他団体と連携した広域観光プロモーションに取り組むため、各種団体に負担金を支出するもの。
また、各団体等に対して補助金を支出し、各地域の魅力発信及び誘客促進を図るもの。

<事業の実施内容及び活動実績(実績値)>

- 1 負担金
 - (1) 松本観光コンベンション協会
 - (2) 日本アルプス観光連盟
 - (3) 美ヶ原観光連盟
 - (4) 長野県観光機構
 - (5) 中部森林管理局国有林観光施設協議会
 - (6) 信州まつもと空港利用促進協議会
 - (7) アルプスエアラインクラブ
 - (8) ぶり街道推進協議会
 - (9) 信州まつもと空港地元利用促進協議会
 - (10) スノーリゾート信州プロモーション委員会
- 2 補助金
 - (1) 浅間温泉観光協会
 - (2) 温泉地魅力創出発信事業
 - (3) 市民参加料理コンクール(中止)
 - (4) (一社)アルプス山岳郷
 - (5) (株)ふるさと奈川

<現状に対する認識と今後の方向性>

現状に対する認識	今後の方向性:	継続
・新型コロナウイルス感染症拡大防止により、各種イベントが中止になり、観光地の入込客数が激減しているため、ポストコロナのプロモーションが必要である。 ・各団体と協力・連携しながら、各種イベントの開催や広告宣伝、誘客事業等効果的な事業展開を図るとともに、広域圏での観光誘客を推進する。 ・各団体の特性を生かした事業展開のための支援を行い、観光振興を図る。		

<第11次基本計画の位置付け・重点戦略>

<市長公約の位置付け、予算要求区分>

基本施策名	7-4	変化する時代の観光戦略	市長公約	公約	—
5つの重点戦略		ポストコロナ戦略	市長公約	主な取組み	—
予算要求区分		経常経費・政策的経費			

<指標の達成状況>

総合評価

A

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 成果指標(指標名)	松本市主要観光地入込者数				
指標の設定理由	各種団体のプロモーション活動による結果であるため				
目標値	3,000,000	3,985,000	4,980,000	5,220,000	5,470,000
実績値	2,628,196				
達成度	87.6%				
② 成果指標(指標名)					
指標の設定理由					
目標値					
実績値					
達成度					

<コスト一覧>

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 事業費(千円)	89,223				
国・県					
利用者負担金					
その他					
一般財源	89,223				
② 人件費(千円)	18,200	人工			
正規	15,180	2			
会計年度任用 (71914、719141・2類)	3020	1			
会計年度任用 (719143・4類)	0				
合計コスト①+②	107,423				

事務事業評価票

部局名 文化観光部 課名 観光プロモーション課

事務事業名	国際観光都市推進事業
-------	------------

<予算上の位置付け>

会計名	一般会計
予算中事業名	国際観光都市推進事業費

<事業の狙い>

事業計画年度

～

松本市を訪れる外国人旅行者を増やすため、プロモーションの実施および団体への負担金支出を行うもの。また、本市を訪れた外国人旅行者の消費・滞在を伸ばすため、受入環境の整備を行うもの。

<事業の実施内容及び活動実績(実績値)>

- 1 海外観光誘客宣伝事業
 - (1) 旅行博への出展
 - (2) 旅行記事や動画を活用した広告宣伝
 - (3) 旅行代理店等への営業活動
- 2 外国人観光客受入環境整備事業
 - (1) 外国人旅行者体験拡充事業
 - (2) 公衆無線LAN環境整備事業
 - (3) 無線LAN環境整備補助金の支出 6件
- 3 団体への負担金支出
 - (1) 日本アルプス観光連盟
 - (2) 国際観光振興機構
 - (3) 長野県国際観光推進協議会

<現状に対する認識と今後の方向性>

現状に対する認識	今後の方向性:	拡充
・近年、インバウンド市場が拡大し、松本市においても外国人宿泊者数はコロナ禍前は5年間で174.2%と大きく伸びたが、渡航制限がかかったため大きく落ち込んでいる。 ・新型コロナウイルス収束後の集客回復のため、今のうちに松本市の認知度を向上させ、次の旅行先には選ばれるよう、海外プロモーションの継続が必要		

<第11次基本計画の位置付け・重点戦略>

基本施策名	7-4	変化する時代の観光戦略
5つの重点戦略		ポストコロナ戦略
予算要求区分		経常経費・政策的経費

<市長公約の位置付け、予算要求区分>

市長公約	公約	3 産業・経済
主な取組み		○ 松本城や周辺区域の総合的整備(歴史観光エリア、セントラルパーク)

<指標の達成状況>

区分	総合評価		C		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 成果指標(指標名)	外国人観光客宿泊者数				
指標の設定理由	プロモーション、受入環境整備の結果であるため				
目標値	20,000	94,400	150,000	188,000	207,000
実績値	4,875				
達成度	24.4%				
② 成果指標(指標名)					
指標の設定理由					
目標値					
実績値					
達成度					

<コスト一覧>

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 事業費(千円)	19,913				
国・県					
利用者負担金					
その他					
一般財源	19,913				
② 人件費(千円)	15,180	人工			
正規	15,180	2			
会計年度任用(7月31日、11月30日1・2類)	0				
会計年度任用(11月30日3・4類)	0				
合計コスト①+②	35,093				

事務事業評価票

部局名 文化観光部 課名 観光プロモーション課

事務事業名	観光戦略推進事業
-------	----------

<予算上の位置付け>

会計名	一般会計
予算中事業名	観光戦略推進事業費

<事業の狙い>

事業計画年度

「観光ビジョン」により、観光客誘致促進や滞在型観光を推進するため、アクションプランの実施や 観光大使を活用したプロモーションなど、効果的な観光施策の展開するもの。
また、公式観光情報ポータルサイト「新まつもと物語」による情報発信強化により、誘客促進を図るもの。

<事業の実施内容及び活動実績(実績値)>

- 松本市観光大使の活動支援
「松本市が有する観光資源を広く周知し、誘客促進を図る」という任命趣旨に基づく活動を支援するもの。(PR用品の購入及び名刺印刷代)
(1) 角田 識之(経営コンサルタント)
(2) 赤司 龍之祐(RKB毎日放送ラジオ局プロデューサー)
(3) FDA11号機(飛行機)
(4) 松本山雅FC(プロサッカーチーム)
(5) 秋本 奈緒美(女優)
(6) 上田 文雄(弁護士、前札幌市長)
(7) 鈴木 ともこ(マンガ家、エッセイスト)
- 公式観光ホームページ情報発信事業
本市を訪れる観光客にとって必要な情報を、民間や行政の区別なく総合的に幅広く提供するとともに、タイムリーな情報を継続かつ効果的に発信するもの。また、外国人旅行者向けに8カ国語(英語、韓国語、中文繁体字、中文簡体字、ロシア語、フランス語、ドイツ語、タイ語)に対応している。
- 松本市観光消費促進事業
新型コロナウイルスの影響により、落ち込んだ観光需要を回復させるため、2万人を対象に市独自の宿泊割引(3,000円)およびデジタルクーポン(2,000円分)を配布するもの。

<現状に対する認識と今後の方向性>

現状に対する認識	今後の方向性:	継続
<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度に観光データの調査・分析を行い、分析結果に基づいた検討を行い、次期ビジョンを策定する必要がある。 個人旅行の需要拡大に伴い、SNS等を活用した情報発信が重要である。 各観光大使の活動を通して、それぞれの分野を生かした松本の魅力を発信する。 公式観光情報サイト「新まつもと物語」を活用し、より魅力のある情報発信を行う。 		

<第11次基本計画の位置付け・重点戦略>

基本施策名	7-4	変化する時代の観光戦略
5つの重点戦略		ポストコロナ戦略
予算要求区分		経常経費

<市長公約の位置付け、予算要求区分>

市長公約	公約	—
主な取組み		—

<指標の達成状況>

区分	総合評価		A		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 成果指標(指標名)	松本市主要観光地入込者数				
指標の設定理由	誘客促進活動や情報発信の結果であるため				
目標値	3,000,000	3,985,000	4,980,000	5,220,000	5,470,000
実績値	2,628,196				
達成度	87.6%				
② 成果指標(指標名)					
指標の設定理由					
目標値					
実績値					
達成度					

<コスト一覧>

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 事業費(千円)	116,643				
国・県					
利用者負担金					
その他					
一般財源	116,643				
② 人件費(千円)	11,385	人工			
正規	11,385	1.5			
会計年度任用 (7/19/15、16-19/161・2類)	0				
会計年度任用 (16-19/153・4類)	0				
合計コスト①+②	128,028				

事務事業評価票

部局名 総合戦略局 課名 アルプスリゾート整備本部

事務事業名	山岳観光推進事業
-------	----------

<予算上の位置付け>

会計名	一般会計
予算中事業名	山岳観光推進事業費

<事業の狙い>

事業計画年度

～

山岳観光事業の開催及び山岳イベント等を支援し、山岳地域への誘客促進を図るもの

<事業の実施内容及び活動実績(実績値)>

- 乗鞍高原周遊バスの運行
乗鞍岳マイカー規制に対する観光振興策(7～10月間の繁忙期15日間)
- 山岳診療所開設支援事業(診療所5カ所、山小屋3カ所)
山岳診療所を開設する大学及び山小屋へ報償費を支出(新型コロナウイルスの影響により、診療所及び山小屋各3カ所が開設中止)
- 各種イベント等への負担金
 - 乗鞍高原索道事業
 - 全国山の日協議会
 - 岳都・松本「山岳フォーラム」
 - 上高地開山祭、上高地閉山式、ウェストン祭(新型コロナウイルス感染拡大防止のため縮小)
- 上高地地区春山除雪費用補助
開山のため上高地町会が実施する遊歩道除雪費用の1/2を補助
- その他
雪を目的とした誘客を図る「乗鞍岳春山バス事業」の実施

<現状に対する認識と今後の方向性>

現状に対する認識	今後の方向性:	継続
観光により山や自然が持つ魅力や価値を伝えるとともに、保全と利用のバランスや楽しむためのルールについても学習できる、SDGsに配慮した持続可能な観光地を目指していく必要がある。 広域観光の視点から、二次交通の整備や自然だけでなく歴史文化など多彩で上質な体験と滞在ができるプログラムの開発及び情報発信の強化が必要。		

<第11次基本計画の位置付け・重点戦略>

<市長公約の位置付け、予算要求区分>

基本施策名	7-5	世界に冠たる山岳リゾートの実現	市長公約	公約	3 産業・経済
5つの重点戦略	ポストコロナ戦略		主な取組み	○ 北アルプスや美ヶ原を結ぶ観光インフラや交通アクセスの整備	
予算要求区分	経常経費				

<指標の達成状況>

総合評価

A

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 成果指標(指標名)	山岳エリアの1人当たりの日本人観光消費額(円)				
指標の設定理由	事業の成果に直結する数値のため				
目標値	42,000	44,000	46,000	48,000	50,000
実績値	35,797				
達成度	85.2%				
② 成果指標(指標名)					
指標の設定理由					
目標値					
実績値					
達成度					

<コスト一覧>

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 事業費(千円)	112,159				
国・県					
利用者負担金					
その他	173				
一般財源	111,986				
② 人件費(千円)	9,855	人工			
正規	7,590	1			
会計年度任用(Ⅰ-1タイプ1-2類)	2,265	0.75			
会計年度任用(Ⅰ-1タイプ3-4類)	0				
合計コスト①+②	122,014				

事務事業評価票

部局名 総合戦略局 課名 アルプスリゾート整備本部

事務事業名	奈川観光施設事業
-------	----------

<予算上の位置付け>

会計名	奈川観光施設事業
予算中事業名	奈川観光施設事業

<事業の狙い>

事業計画年度

～

市民等のウィンタースポーツの振興、地域の活性化及び雇用の創出を図るため、野麦峠スキー場の更なる利用促進に取り組むもの

<事業の実施内容及び活動実績(実績値)>

1 実施内容 指定管理者:(株)岳都リゾート開発(H30.9.1~R5.8.31)
2 活動実績 (1)スキー場営業日数・利用者数 H28年度 93日 35,388人 H29年度 90日 32,448人 H30年度 96日 26,885人 R元年度 97日 27,724人 R2年度 99日 25,523人 R3年度 93日 31,249人
(2)スキー場索道整備計画に基づく令和3年度工事等 リフト改修工事 29,920千円 災害復旧工事 5,533千円

<現状に対する認識と今後の方向性>

現状に対する認識	今後の方向性:	継続
環境の変化(温暖化)に伴いシーズンを通して雪不足は深刻であり、降雪機を稼働しオープンしている状況。地元奈川の人口減少、高齢化によりスキー場スタッフの確保に苦慮している。索道事業は安全が第一であり、リフトの点検や整備は欠かすことができないため、整備計画を立て維持管理に努めているが多額の費用が発生している。 奈川地区の冬の観光事業の核となる施設であるため、グリーンシーズンの誘客を含めたスキー場の今後のあり方を奈川地区として検討していく。		

<第11次基本計画の位置付け・重点戦略>

基本施策名	7-5	世界に冠たる山岳リゾートの実現
5つの重点戦略		—
予算要求区分		政策的経費

<市長公約の位置付け、予算要求区分>

市長公約	公約	—
市長公約	主な取組み	—

<指標の達成状況>

区分	総合評価		A		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 成果指標(指標名)	野麦峠スキー場利用者数(人)				
指標の設定理由	事業の成果に直結する数値のため				
目標値	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000
実績値	31,249				
達成度	86.8%				
② 成果指標(指標名)					
指標の設定理由					
目標値					
実績値					
達成度					

<コスト一覧>

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 事業費(千円)	117,870				
国・県					
利用者負担金					
その他	35,400				
一般財源	82,470				
② 人件費(千円)	7,590	人工			
正規	7,590	1			
会計年度任用 (H30年度、R1年度)	0				
会計年度任用 (R2年度、R3年度)	0				
合計コスト①+②	125,460				

事務事業評価票

部局名 総合戦略局 課名 アルプスリゾート整備本部

事務事業名	上高地観光施設事業
-------	-----------

<予算上の位置付け>

会計名	上高地観光施設
予算中事業名	上高地観光施設事業

<事業の狙い>

事業計画年度

～

地域活動の重要な施設として、誰もが快適に過ごせるようおもてなしの向上を図るとともに、施設の適正な維持管理に努め、信頼され選ばれる施設として健全な経営につなげる。

<事業の実施内容及び活動実績(実績値)>

1 実施内容	新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図り、観光客の受入れを行った。 (1) 姉妹都市に対する特別割引プランの実施 (2) 各種支援事業の実施(信州割SPECIAL等) (3) 上高地アルペンホテルの取組み ア オンラインシステムや予約サイトを通した空室提供及び空室管理 イ 新たなツアーの造成 (4) 上高地食堂の取組み 新メニューの開発や特産品の販売 (5) 徳沢ロッジの取組み SNSを活用した、情報発信による集客促進
2 活動実績(施設別利用客数)	(1) 上高地アルペンホテル R2 4,284人 R3 4,286人 (2) 上高地食堂 R2 39,642人 R3 48,589人 (3) 徳沢ロッジ R2 2,058人 R3 3,148人 (4) 焼岳小屋 R2 263人 R3 297人 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は、7月中旬まで休業(上高地食堂のみ6月末まで休業) ※令和3年度は、4月中旬から営業を始めたが、都道府県単位ごとに、再度、緊急事態宣言が発令されたため、利用客のキャンセルが相次いだ。

現状に対する認識	今後の方向性:	継続
新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2、3年度と観光業全体で大きな影響を受ける中、上高地についても例外ではなく、大きな影響を受けた。しかし、新型コロナウイルス感染症が落ち着いた10月、各宿泊施設で令和元年度並の利用者数となり、収束次第では上高地へ観光客が戻るのではないかと考えている。今後は、感染対策の徹底を継続するとともに、コロナ収束後に向けた、新たなツアーの造成、メニュー開発、また、SNSを活用した情報発信を強化し、収益の増加に取り組む。		

<第11次基本計画の位置付け・重点戦略>

<市長公約の位置付け、予算要求区分>

基本施策名	7-5	世界に冠たる山岳リゾートの実現	市長公約	公約	—
5つの重点戦略		—	市長公約	主な取組み	—
予算要求区分		経常経費			

<指標の達成状況>

総合評価

A

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 成果指標(指標名)	山岳エリアの1人当たりの日本人観光消費額(円)				
指標の設定理由	事業の成果に直結する数値のため				
目標値	42,000	44,000	46,000	48,000	50,000
実績値	35,797				
達成度	85.2%				
② 成果指標(指標名)					
指標の設定理由					
目標値					
実績値					
達成度					

<コスト一覧>

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 事業費(千円)	276,105				
国・県					
利用者負担金					
その他					
一般財源	276,105				
② 人件費(千円)	7,590	人工			
正規	7,590	1			
会計年度任用(7月1日、11月1日)	0				
会計年度任用(11月1日)	0				
合計コスト①+②	283,695				

事務事業評価票

事務事業名	東山地域観光施設事業
-------	------------

<予算上の位置付け>

会計名	一般会計
予算中事業名	東山地域観光施設事業費

<事業の狙い>

事業計画年度

～

東山地域の観光誘客を図るため、各種パンフレットの印刷及び観光施設等の維持管理を行うもの。

<事業の実施内容及び活動実績(実績値)>

1 実施内容
(1) 美ヶ原高原登山道及び市内各所遊歩道等の維持管理
(2) 美鈴湖、美ヶ原温泉駐車場、思い出の丘公衆トイレ維持管理
(3) 観光施設土地賃貸借契約業務
(4) ロングトレイル、遊歩道等の観光マップ作成業務
(5) 観光施設維持管理業務
(6) 各種協会等負担金支払い事務 など
2 活動実績
(1) 美ヶ原・鉢伏登山道遊歩道維持管理委託
(2) 美鈴湖、思い出の丘公衆便所清掃委託、美鈴湖公衆便所汲み取り委託
(3) 三城いこいの広場、美ヶ原思い出の丘、美ヶ原温泉地域土地借上事務
(4) 遊歩道マップ、美ヶ原高原ロングトレイルマップ作成
(5) 三城いこいの広場、美ヶ原温泉駐車場・テニスコート管理委託
(6) 美ヶ原自然保護センター管理運営委託
(7) 日本温泉協会、松塩筑安曇野温泉協会、浅間温泉事業協同組合負担金 など

<現状に対する認識と今後の方向性>

現状に対する認識	今後の方向性:	継続
指定管理者や委託業者とともに運営や維持管理を行っている。今後も施設利用者が安全に施設利用できるよう、美ヶ原ロングトレイルマップ等を作成するとともに、施設の維持管理を継続していきたい。		

部局名 | 文化観光部 | 課名 | 観光プロモーション課

<第11次基本計画の位置付け・重点戦略>

<市長公約の位置付け、予算要求区分>

基本施策名	7-5	世界に冠たる山岳リゾートの実現	市長公約	公約	3 産業・経済
5つの重点戦略	-		主な取組み	○ 北アルプスや美ヶ原を結ぶ観光インフラや交通アクセスの整備	
予算要求区分	経常経費・政策的経費				

<指標の達成状況>

総合評価

A

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 成果指標(指標名)	美ヶ原高原入込数				
指標の設定理由	進捗状況が測れるため				
目標値	350,000	450,000	500,000	520,000	550,000
実績値	300,600				
達成度	85.9%				
② 成果指標(指標名)					
指標の設定理由					
目標値					
実績値					
達成度					

<コスト一覧>

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 事業費(千円)	26,419				
国・県					
利用者負担金					
その他					
一般財源	26,419				
② 人件費(千円)	7,590	人工			
正規	7,590	1			
会計年度任用 (〇〇〇〇〇、〇〇-〇〇〇〇〇〇-2類)	0				
会計年度任用 (〇〇-〇〇〇〇〇〇-4類)	0				
合計コスト①+②	34,009				